

第167回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和7年 HIV感染者・エイズ患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和7年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、624件（過去20年間で、1番目に少ない報告数）
3. 新規エイズ患者報告数は、266件（過去20年間で、2番目に少ない報告数）
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は890件
（過去20年間で、2番目に少ない報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが404件（全新規HIV感染者報告数の約65%）
 - 異性間性的接触によるものが91件（全新規HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは1件
 - 外国国籍のものが157件（全新規HIV感染者報告数の約25%）
 - 年齢別では、20～30歳代が多い。
2. **新規エイズ患者：**
 - 同性間性的接触によるものが139件（全新規エイズ患者報告数の約52%）
 - 異性間性的接触によるものが52件（全新規エイズ患者報告数の約20%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 外国国籍のものが56件（全新規エイズ患者報告数の約21%）
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査及びHIV郵送検査件数は107,083件
（過去20年間で、5番目に少ない件数）
2. 保健所等における相談件数は73,359件
（過去20年間で、4番目に少ない件数）

《まとめ》

1. 令和7年の新規HIV感染者報告数は、令和6年と比べわずかに減少（-約6%）した。令和7年の新規エイズ患者報告数は、令和6年と比べ減少（-約20%）した。新規報告数全体に占めるエイズ患者報告数の割合は、依然として約3割で推移している。保健所等での検査件数の伸びが停滞していることも留意しつつ、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約79%（うち約82%が同性間）、新規エイズ患者では約72%（うち約73%が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規エイズ患者ともに、男性が全体の9割を超えている。

3. 保健所等におけるH I V抗体検査及びH I V郵送検査件数は、前年に比べおおむね横ばい（－約2%）である。今回の報告からH I V郵送検査件数を新たに追加したところであり、検査件数の解釈については、今後の推移を注視しつつ慎重に検討していく必要がある。保健所及び自治体におかれては、引き続き早期診断につながる検査機会の確保に努めていただきたい。
4. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における10万件当たりの陽性件数は令和6年と比べて減少した。しかし、依然として陽性件数があることを踏まえると、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
5. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、エイズ発症予防のためには、早期診断と早期治療が重要である。感染予防と早期診断は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、都市部・地方部を問わず全国の各地域において、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。